

悩む子ども 支援策は？ 講演、パネル討議で探る

高校中退・不登校セミナー

長崎



「高校中退者・不登校を
考えるセミナー」が27日、
長崎市茂里町の長崎新聞文
化ホール・アストピアで開
かれ、専門家による講演や
パネル討議を通し、子ども
たちの支援策を探った。

NPO法人「全国ゆめ未
来支援協会（長崎市）主催、
長崎新聞社など共催。約80
人が集まった。文科科学省
の2010年の調査による
と、不登校児童・生徒は全国
で約16万8千人に上り、中
学生は約37人に1人、高校
生は約60人に1人の計算。
初めに元国連広報局・ユ
ニセフ駐日代表で医学・教
育学博士の溝田勉氏が「高
校中退者・不登校の現状に
ついて」と題し講演。子ど
もたちを取り巻く環境につ
いて「地域社会や家族との
かわりが薄くなってい
る」と指摘。若者のプライ
ドを認め、一緒に苦境を乗
り越えていく環境づくりの
必要性を訴えた。

パネル討議では、多くの
不登校生を受け入れる佐賀
星生学園（佐賀県）の加藤
雅世子校長ら4人が、子ど
もたちの明るい未来につい
て意見を出し合った。

（鶴田和人）

掲載写真は
ウェブ
写真館
長崎新聞ホームページ
長崎新聞 写真館 検索

2013年(H25)4月28(日)
長崎新聞

「高校中退者・不登校について考
える」をテーマに意見を交わした
パネル討議＝長崎新聞文化ホール
・アストピア（荒木勝郎撮影）